

日本語学習者の平仮名表記および ハングル表記に関する一考察

-長母音表記を中心に-

黒柳子生*

heiliuzisheng@hotmail.com

〈目次〉

- | | |
|----------|----------------------|
| 1.はじめに | 4.3 実験結果および分析 |
| 2.問題提起 | 4.3.1 平仮名表記の結果および分析 |
| 3.先行研究 | 4.3.2 平从名表記の考察 |
| 4.実験 | 4.3.3 ハングル表記の結果および分析 |
| 4.1 実験対象 | 4.3.4 ハングル表記の考察 |
| 4.2 実験道具 | 4.3.5 類型別の比較 |
| | 5.おわりに |

主題語: 長母音(Long vowel)、外来語表記法(Loanword orthography)、平从名表記(Transcription of Hiragana)、
ハングル表記(Transcription of Hangeul)、パッチム挿入表記(Insertion of final consonant)

1. はじめに

現代韓国語ではソウル地方の言葉を標準語として定められており、特に正書法(한글맞춤법)において長母音は表記されず、以前は母音の長短により語彙がミニマルペアとして区別されていたが、近年では若い世代を中心にそれらの区別がつかなくなってきた。そのため多くの韓国人日本語学習者は長母音に対する認識が弱く、日本語を学習する際にも単語の長短の区別が苦手なように思われる。日本語の教育現場でも、授業時間の制限などから長母音の教育は初級のごく早い段階で説明がなされる程度に留まり、中・上級においては教師による発音指導にその重点が置かれているようである。発音による長短の区別は比較的に相対的なものであり、学習者が長母音を正確に認識しているかは発音からだけでは判

* 高麗大学校 言語学科 博士課程

断がつけにくいのが現実である。

本稿では韓国人日本語学習者が日本語長母音をどの程度認識し、正確な表記を書き記すことができるのかを初・中・上級ごとに分けて観察する。そして日本語の正書法の制約を受ける「平仮名」表記と、そのような表記上の制約を受けない「ハングル」表記とを比べることで、1)表記に使う文字の種類によって学習者の長母音認識にどのような差がみられるのか、2)長母音表記が定められていないハングル表記において学習者がどのような表記を見せるのか、以上の2点を考察することでハングルにおける長母音表記の問題点と表記の必要性を検証してみようとするものである。

2. 問題提起

日本語と韓国語は語順や助詞の使用法など多くの面で共通点がみられる言語であるが、母音や子音などの面では多くの部分に相違がみられる。音韻論的に日本語が五母音であるのに対して韓国語は基本母音のみでも十母音にのぼり、合成母音まで含めるとその数は日本語のそれとは比較にならないほど複雑である。そのために複数の韓国語母音が一つの日本語母音と相対的に類似して対応する結果をもたらす。現行表記法に従った以下(1)はその例である。

- (1) a. うす → usu → 우스
- b. つる → tsuru → 쓰루

日本語の母音を表記する際に、例えば「ウ」に対してローマ字(アルファベット)表記では「u」のみであるが、ハングル表記では「우」と「으」の二つの母音が存在しているのである。

子音に関してはさらに複雑で、韓国語の平音・激音・濃音は語頭においては全てが日本語の清音に対応してしまい、その区別は容易ではない。日本語をハングルで表記する際のハングル正書法の規則である語頭の清音は平音で表記するという規定も助けて日本語と韓国語の子音対応は非常に複雑な様相を呈している。(2)はその例である。

- (2) a. こいづみ → 고이즈미
- b. いっこくどう → 잇코쿠도

c. こくりこ → 코쿠리코¹⁾

日本語においては全てが同じ音韻「コ」であるにも関わらず、ハングル表記は外来語表記法の規則に従って書かれなければならず、(2.a)では語頭なので平音「ヱ」で、(2.b, 2.c)では語中語末なので「豆」で書かれている。ところが最近では清音が語頭であるにも関わらず「豆」を使った表記(2.c)もみられ、これは語頭であろうとも日本語の表記の統一を図ろうとしたものとして考えられ、筆者もこの表記法に賛成であるが、現行表記法の規則からは逸脱してしまうなどの問題が発生するのである。

そこで本研究は、日本語の長母音を学習者が実際にどのような表記で認識しているのかを確認し、表記の多様性から日本語のハングル表記の統一の必要性を主張しようとするものである。そのためにまず長母音を平仮名で書かせる実験を実施し、学習者の長母音認識率をレベル別に分析、長母音表記の類型を観察する。そして学習者が長母音表記の存在しないハングルで、どの程度の長母音認識を示すかを確認し、ハングル表記の多様性から日本語長母音表記の必要性を強調する。

3. 先行研究

ハングルによる日本語表記に関する研究²⁾はいくつも行われているが、日本語長母音の表記について学習者を対象にハングルで書かせたものは非常に少ない。理論的に日本語をどのように表記するかは研究が行われてきており、特に黒柳・劉(2012)では日本語長母音に対する新しいハングル表記法を提案・実験したが、学習者が日本語の音を聞き、実際にどのようなハングル表記をみせるのかという研究はまだほとんど見受けられない。

そこで、本研究では平仮名には長母音表記の規則があるがハングルには長母音表記の決まりがないために学習者がどのような表記の違いをみせるかを観察し、ハングルにおける長母音表記統一の必要性が強調できるであろう。

1) 2011年に放映された宮崎吾朗監督の日本映画『コクリコ坂から』の韓国名の一部である。

2) 日本語表記に関する外来語表記法の問題を扱った研究としては강인선(1996)、고수만(1999)、편무진(1999)、서현숙(2002)、김용각(2008)などがある。

4. 実験

本研究では学習者が日本語の長母音をどのように表記しているのかを確認するために、平仮名およびハングルによる書き取り(받아쓰기)実験を行った。

4.1 実験対象

日本語学習者による長母音表記を調査するために日本語学習者24名を対象に日本語の音声を聞き取ってもらい、それらを平仮名とハングルで書かせる実験を行った。被験者はソウルおよび韓国中部のテグ(大邱)在住の10代から30代までの男女で、日本語学習期間は最小5か月(1名)から最長約5年までである。学習者を初級、中級、上級に分けるために(旧)日本語能力試験に順ずるレベル分けテストを実施し、点数の高い順に上位8名を上級、下位8名を初級、そして中位8名を中級に分類した。

4.2 実験道具

この実験に使用された語彙は金淑子(1983)と志賀加奈子(2008)で使われたものとそれらの母音の長短を調節して作った実際には存在しない仮想語彙であり、以下に示した通りである。それぞれの実験において日本語能力試験出題語彙5語、出題範囲外の語彙5語、仮想語彙5語の各15語ずつ全30語を使用した。以下の(3)は平仮名表記に用いられた実験語彙で、(4)はハングル表記に用いられた実験語彙である。

(3) a. くろう(苦労) b. くこう(句稿) c. こうきゅう(高級)

d. じょうせい(情勢) e. すうり(数理) f. せと(瀬戸)

g. とうし(投資) h. どきょう(度胸) i. ゆうき(勇気)

j. りょうこ(両虎) k. つうちい(×) l. とけ(×)

m. ばあい(×) n. ほうほ(×) o. めれい(×)

(4) a. いえい(遺影) b. くうこう(空港) c. くこ(구기자 나무)

d. すり(소매치기) e. どうきょ(同居) f. とおる(通る)

g. へいや(平野) h. ぼし(母子) i. めいめい(命令)

- | | | |
|------------|-----------|------------|
| j. ようじゅ(×) | k. えが(×) | l. くうろう(×) |
| m. こうきゅ(×) | n. せとう(×) | o. とおけ(×) |

これらの語彙を東京出身の30代女性の日本語母語話者に発音してもらい、録音した。録音に際しては音声分析プログラムであるPRAAT³⁾を利用した。

4.3 実験結果および分析

平仮名とハングルによる書き取り実験の結果をまとめると以下<表1>のように整理できる。ここでは平仮名表記とハングル表記のそれぞれにおいて、長母音をどの程度認識して表記しているのか、長母音表記をどの程度正しく表記しているのかを各級ごとに示している。

<表 1> (単位: 件数(%))

平从名表記類型	初級	中級	上級	全体
長母音認識表記	62(51.7%)	83(69.2%)	96(80.0%)	241(66.9%)
長母音正表記	50(41.7%)		85(70.8%)	217(60.3%)
その他の表記	58(48.3%)	37(30.8%)	24(20.0%)	119(33.1%)
ハングル表記類型	初級	中級	上級	全体
長母音認識表記	68(56.7%)	81(67.5%)	97(80.8%)	246(68.3%)
長母音正表記	31(25.8%)		54(45.0%)	125(34.7%)
その他の表記	52(43.3%)	39(32.5%)	23(19.2%)	114(31.7%)

提示語彙が長母音であることを認識して何らかの形で長母音表記ができたもの(長母音認識表記)を見ると、平从名においてもハングルにおいても各級で5%以内の差に留まっている。この事からも学習者は表記に使う文字の種類に関わらず聞こえてきた日本語の音が長母音であることを初級では51.7%~56.7%、中級では67.5%~69.2%、上級では80.0%~80.8%の割合でそれぞれ認識していることが確認された。しかし長母音の表記に関して具体的に見ると大きな差が見て取れる。そこで平从名表記およびハングル表記においてそれぞれど

3) PRAATとは、インターネット上(www.praat.org)でダウンロードが可能な音声分析ソフトである。

のような長母音表記が見られるのかを以下で分析する。

4.3.1 平仮名表記の結果および分析

日本語の音声を聴取して平仮名で表記させた実験の結果は以下(5)のとおりである。様々な表記を類型別にまとめた結果、9種類の表記がみられた。

- (5) a. 「転写」表記：提示語彙と全く同じように書き記したもの
- b. 「同母音長音化」表記：提示語彙の表記を無視して実際に聞こえるままに長母音を記したもの
- c. 「符号」表記：カタカナに使われる長母音符号「一」を記したもの
- d. 「短母音化」表記：長母音でなければならない所を短母音で記したもの
- e. 「長母音化」表記：短母音でなければならない所を長母音で記したもの
- f. 「母音代替」表記：母音の音価が変化したもの
- g. 「子音代替」表記：子音の音価が変化したもの
- h. 「促音添加」表記：促音がない部分に促音を加えて書き記したもの
- i. 「字形ミス」表記：文字習得の未熟さからくると思われるもの

続いて具体的に学習者が表記した回答の分析を行う。表の左列は学習者のレベルを、中央は母音の長短を提示語彙と同様に認識している表記を、右列は母音の長短を提示語彙とは異なって認識している表記をそれぞれ示している。ここでは全回答のうち紙面の関係上、その一部を提示し、分析した。数字は回答数を、()内は百分率を示している。

<表 2> 『くろう(苦労)』に対する級別の平仮名表記

<くろう(苦労)>	長母音認識表記 ⁴⁾		その他の表記	
初級学習者	くろう	1(12.5%)	くろ	5(62.5%)
	くるう	1(12.5%)	くうろ	1(12.5%)
中級学習者	くろう	6(75.0%)	くろ	2(25.0%)
上級学習者	くろう	7(87.5%)	くろ	1(12.5%)

4) 本稿における長母音認識表記とは、正書法に基づいた正誤に関わらず、提示語彙が長母音を含む場合は母音を添加して何かしらの形で長母音として表記したもの「ずうせえ↔じょうせい」を、提示語彙が短母音のみの場合は一切の長母音を含まないもの「どけ↔とけ(仮想語彙)」を示す。例としては「ず

初級学習者では長母音認識表記が2件で、そのうち転写表記「くろう」と母音代替表記「くるう」がそれぞれ1件ずつであり、その他の表記としては語末短母音化表記「くろ」が5件、位置移転表記「くうろ」が1件であった。また、字形ミス表記とも考えられる「くるう」は学習者が初級である点を考慮すると仮名文字の未熟知による単純な表記ミスの可能性もある。

中級学習者では長母音認識表記が6件で、そのうち全てが転写表記「くろう」であり、その他の表記としては語末短母音化表記「くろ」が2件であった。

上級学習者では長母音認識表記が7件で、そのうち全てが転写表記「くろう」であり、その他の表記としては語末短母音化表記「くろ」が1件であった。

<表 3>『じょうせい(情勢)』に対する級別の平仮名表記

< じょうせい(情勢) >	長母音認識表記	その他の表記		
初級学習者	じょうせい ずうせえ	2(25.0%) 1(12.5%)	じょうせ じょせい じょせ	3(37.5%) 1(12.5%) 1(12.5%)
中級学習者	じょうせい ぞうせい	5(62.5%) 1(12.5%)	じょうせ じょせ	1(12.5%) 1(12.5%)
上級学習者	じょうせい	8(100%)	-	0(0%)

初級学習者では長母音認識表記が3件で、そのうち転写表記「じょうせい」が2件、子音代替・同母音長音化「ずうせえ」が1件であり、その他の表記としては語末短母音化表記「じょうせ」が3件、語頭短母音化表記「じょせい」が1件、語頭語末短母音化表記「じょせ」が1件であった。

中級学習者では長母音認識表記が6件で、そのうち転写表記「じょうせい」が5件、子音代替表記「ぞうせい」が1件であり、その他の表記としては語末短母音化表記「じょうせ」が1件、語頭語末短母音化表記「じょせ」が1件であった。

上級学習者では長母音認識表記が8件で、全てが転写表記「じょうせい」であった。

うせえ(情勢)や「とおし(投資)」などは発音や表記上では誤りであるが長母音でなければならない箇所を長母音として認識はしているものであるので、長母音認識表記に含まれるものとする。

<表 4>『とうし(投資)』に対する級別の平仮名表記

< とうし(投資) >	長母音認識表記		その他の表記	
初級学習者	とうし どうし	5(62.5%) 1(12.5%)	どし	2(25.0%)
中級学習者	とうし どうし どおし	5(62.5%) 2(25.0%) 1(12.5%)	-	0(0%)
上級学習者	とうし とおし	7(87.5%) 1(12.5%)	-	0(0%)

初級学習者では長母音認識表記が6件で、そのうち転写表記「とうし」が5件、語頭子音代替表記「どうし」が1件であり、他の表記としては語頭短母音・子音代替表記「どし」が2件であった。

中級学習者では全8件において長母音認識表記がみられ、そのうち転写表記「とうし」が5件、語頭子音代替表記が2件、語頭子音代替・同母音長音化表記「どおし」が1件であった。

上級学習者では全8件において長母音認識表記がみられ、そのうち転写表記「とうし」が7件、同母音長音化表記「とおし」が1件であった。

<表 5>『とけ(仮想語彙)』に対する級別の平仮名表記

< とけ(仮想語彙) >	長母音認識表記		その他の表記	
初級学習者	とけ だけ	4(50.0%) 2(25.0%)	とうけ	2(25.0%)
中級学習者	とけ とつけ だけ	2(25.0%) 2(25.0%) 1(12.5%)	とけい とけー	2(25.0%) 1(12.5%)
上級学習者	とけ とつけ だけ	3(37.5%) 3(37.5%) 1(12.5%)	とけい	1(12.5%)

初級学習者では長母音認識表記が6件で、そのうち転写表記「とけ」が2件、語頭子音代替表記が4件であり、他の表記としては語頭長母音化表記「とうけ」が2件であった。

中級学習者では長母音認識表記が5件で、そのうち転写表記「とけ」が2件、促音添加表記「とつけ」が2件、語頭子音代替表記「だけ」が1件であり、他の表記としては語末長母音化表記が3件で、うち2件は平仮名「い」添加型で、残りの1件は長母音符号「一」添加型であった。

上級学習者では長母音認識表記が7件で、そのうち転写表記「とけ」が3件、促音添加表記「とっけ」が3件、語頭子音代替表記「どけ」が1件であり、その他の表記としては語末長音化表記「とけい」が1件であった。

4.3.2 平仮名表記の考察

上述の平仮名表記に関する実験の結果を級別、さらに各類型別にまとめると以下のように整理することができる。

<表 6> 平仮名表記の級別表記類型

平从名表記	初級	中級	上級	全体
転写	152(63.3%)	178(74.2%)	201(83.8%)	531(73.8%)
短母音化	43(17.9%)	18(7.5%)	15(6.3%)	76(10.1%)
長母音化	14(5.8%)	20(8.3%)	9(3.8%)	43(6.0%)
子音代替	13(5.4%)	14(5.8%)	8(3.3%)	35(4.9%)
促音添加	3(1.3%)	7(2.9%)	5(2.1%)	15(2.1%)
同母音長音化	3(1.3%)	1(0.4%)	1(0.4%)	5(0.7%)
母音代替	3(1.3%)	0(0.0%)	1(0.4%)	4(0.6%)
長母音符号	0(0.0%)	2(0.8%)	0(0.0%)	2(0.3%)
字形ミス	9(3.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	9(1.3%)

平从名表記では全ての級において転写表記が60%を越える高い比率をみせ、全体では73.8%であった。その次に短母音化表記が続くが全体で10.1%に過ぎず、最も多くみられた初級でも17.9%にとどまった。それ以外の表記類型は10%を下回り、長母音化(6.0%)、子音代替(4.9%)、促音添加(2.1%)、同母音長音化(0.7%)、母音代替(0.6%)、長母音符号(0.3%)の順であり、字形ミスは9件(1.3%)であった。

4.3.3 ハングル表記の結果および分析

日本語の音声を聴取してハングルで表記させた実験の結果は以下(6)のとおりである。様々な表記を類型別にまとめた結果、8種類⁵⁾の表記がみられた。

- (6) a. 「転写」表記：提示語彙の平仮名を一字一字ハングルに置き換え記したもの
 b. 「同母音長音化」表記：提示語彙の表記を無視して実際に聞こえるままに母音を記したもの
 c. 「符号」表記：カタカナに使われる長母音符号「一」を記したもの
 d. 「短母音化」表記：長母音でなければならない所を短母音で記したもの
 e. 「長母音化」表記：短母音でなければならない所を長母音で記したもの
 f. 「母音代替」表記：母音の音価が変化したもの
 g. 「子音代替」表記：子音の音価が変化したもの
 h. 「パッチム(받침)挿入」表記：パッチム表記を書き加えたもの
 i. 「表記ミス」表記：音声からは推測しがたい表記を書き記したもの

続いて具体的に学習者が表記した回答の分析を行う。表の左列は学習者のレベルを、中央は母音の長短を提示語彙と同様に認識している表記を、右列は母音の長短を提示語彙とは異なって認識している表記をそれぞれ示している。ここでも全回答のうち紙面の関係上、その一部を提示し、分析した。数字は回答数を、()内は百分率を示している。

<表 7> 『いえい(遺影)』に対する級別のハングル表記

< いえい(遺影) >	長母音認識表記	その他の表記
初級学習者	-	0(0%) 이에 이이에 이예
中級学習者	이에이 이에에	1(12.5%) 이에 이이에 1(12.5%)
上級学習者	이에- 이에이	3(37.5%) 이에 1(25.0%) 이이에 1(12.5%)

初級学習者では長母音認識表記は見られず、全8件においてその他の表記がみられ、語末短母音化表記「이에」が5件、語頭長母音化・語末短母音化表記「이이에」が2件、語末母音代替表記「이예」が1件であった。

5) 各類型に対する例は以下の通りである。転写表記は提示語彙「くうこう」に対する「쿠우코우」、同母音長音化表記は提示語彙「どうきょ」に対する「도우쿄」、符号表記は提示語彙「いえい」に対する「이에-」、短母音化表記は提示語彙「いえい」に対する「이에」、長母音化表記は提示語彙「どうきょ」に対する「도우쿄우」、母音代替表記は提示語彙「くうこう」に対する「쿠으쿄우」、子音代替表記は提示語彙「くうこう」に対する「구우쿄」、パッチム挿入表記は提示語彙「くこ」に対する「쿠쿄」、表記ミス表記は提示語彙「えが」に対する「에가」等がそれぞれの一例である。

中級学習者では長母音認識表記が2件で、そのうち転写表記「이에이」が1件、同母音長音化表記「이에이」が1件であり、その他の表記としては語末短母音化表記「이에」が5件、語頭長母音化・語末短母音化表記「이이에」が1件であった。

上級学習者では長母音認識表記は4件で、そのうち長母音符号表記「이에-」が3件、転写表記「이에이」が1件であり、その他の表記としては語末短母音化表記「이에」が3件、語頭長母音化・語末短母音化表記「이이에」が1件であった。

<表 8>『くうこう(空港)』に対する級別のハングル表記

<くうこう(空港)>	長母音認識表記		他の表記	
初級学習者	쿠우코오	2(25.0%)	구우코	1(12.5%)
	쿠우꼬오	1(12.5%)	구코우-	1(12.5%)
	구우코우	1(12.5%)	쿠꼬우	1(12.5%)
中級学習者	쿠우코우	2(25.0%)	구우코	1(12.5%)
	쿠우코오	2(25.0%)	쿠우코	1(12.5%)
	쿠-코-	2(25.0%)		
上級学習者	쿠우코우	3(37.5%)	쿠꼬	
	쿠우코오	2(25.0%)		1(12.5%)
	크으코오	1(12.5%)		
	구우코-	1(12.5%)		

初級学習者では長母音認識表記が4件で、そのうち転写表記はみられず、同母音長音化表記「쿠우코오」が2件、語頭子音代替表記「구우코우」が1件、語中子音代替表記「쿠우꼬오」が1件であり、その他の表記としては語頭子音代替・語末短母音化表記「구우코」が1件、語頭子音代替・短母音化・長母音符号表記「구코우-」が1件、語頭短母音化・語末子音代替・長母音化表記「쿠꼬우」が1件、同母音長音化・語末短母音化表記「쿠우코」が1件であった。

中級学習者では長母音認識表記が6件で、そのうち転写表記「쿠우코우」が2件、同母音長音化表記「쿠우코오」が2件、長母音符号表記「쿠-코-」が2件であり、その他の表記としては語頭子音代替・語末短母音化表記「구우코」が1件、語末短母音化表記「쿠우코」が1件であった。

上級学習者では長母音認識表記が7件で、そのうち転写表記「쿠우코우」が3件、同母音長音化表記「쿠우코오」が2件、語頭母音代替・語末同母音長音化表記「크으코오」が1件、語頭子音代替・語末長母音符号表記「구우코-」が1件であり、その他の表記としては語頭短母音・語末子音代替・短母音化表記「쿠꼬」が1件であった。

<表 9>『どうきょ(同居)』に対する級別のハングル表記

< どうきょ(同居) >	長母音認識表記		その他の表記	
初級学習者	도우쿄 도오쿄	3(37.5%) 1(12.5%)	도쿄 도오쿄오 도쿄	2(25.0%) 1(12.5%) 1(12.5%)
中級学習者	도오쿄 도우쿄	2(25.0%) 1(12.5%)	도우쿄우 도쿄- 도쿄 도오쿄오	2(25.0%) 1(12.5%) 1(12.5%) 1(12.5%)
上級学習者	도우쿄 도오쿄 토우쿄	3(37.5%) 3(37.5%) 1(12.5%)	도오쿄오	1(12.5%)

初級学習者では長母音認識表記が4件で、そのうち転写表記「도우쿄」が3件、同母音長音化表記「도오쿄」が1件であり、その他の表記としては短母音化表記「도쿄」が2件、語頭同母音長音化・語末長母音化表記「도오쿄오」が1件、短母音化・子音代替表記「토우쿄」が1件であった。

中級学習者では長母音認識表記が3件で、そのうち同母音長音化表記「도오쿄」が2件、転写表記「도우쿄」が1件であり、その他の表記としては長母音化表記「도우쿄우」が2件、長母音符号表記「도쿄-」が1件、短母音化表記「도쿄」が1件、同母音長音化・長母音化表記「도오쿄오」が1件であった。

上級学習者では長母音認識表記が7件で、そのうち転写表記「도우쿄」が3件、同母音長音化表記「도오쿄」が3件、語頭子音代替表記「토우쿄」が1件であり、その他の表記としては同母音長音化・長母音化表記「도오쿄오」が1件であった。

<表 10>『くこ(枸杞)』に対する級別のハングル表記

< くこ(枸杞) >	長母音認識表記		その他の表記	
初級学習者	ㅋ코 ㅋ꼬 ㅋㅋ ㅋ꼬	3(37.5%) 2(25.0%) 2(25.0%) 1(12.5%)	-	0(0%)
中級学習者	ㅋ코 ㅋㅋ ㅋㅋ ㅋ꼬	4(50.0%) 2(25.0%) 1(12.5%) 1(12.5%)	-	0(0%)

上級学習者	ㅋㅋ	3(37.5%)	-	0(0%)
	ㅌㅌ	2(25.0%)		
	ㅎㅎ	2(25.0%)		
	ㅍㅍ	1(12.5%)		

初級学習者では転写表記「ㅋㅋ」が3件、パッチム挿入・語末子音代替表記「ㅌㅌ」「ㅎㅎ」がそれぞれ2件ずつ、語頭母音代替・語末子音代替表記「ㅍㅍ」が1件であった。

中級学習者では転写表記は見られず、パッチム挿入表記「ㅋㅋ」「ㅌㅌ」「ㅎㅎ」がそれぞれ4件、2件、1件であり、パッチム挿入・語末子音代替表記「ㅍㅍ」が1件であった。

上級学習者では転写表記「ㅋㅋ」が3件、パッチム挿入表記「ㅌㅌ」が2件、語末子音代替表記「ㅎㅎ」が2件、母音代替表記「ㅍㅍ」が1件であった。

4.3.4 ハングル表記の考察

上述のハングル表記に関する実験の結果を級別、さらに各類型別にまとめると以下のように整理することができる。

<表 11> ハングル表記の級別表記類型

ハングル表記	初級	中級	上級	全体
転写	117(48.8%)	137(57.1%)	157(65.4%)	411(57.1%)
短母音化	51(21.3%)	30(12.5%)	19(7.9%)	100(13.9%)
長母音化	10(4.2%)	9(3.8%)	6(2.5%)	25(3.5%)
子音代替	26(10.8%)	6(2.5%)	9(3.8%)	41(5.7%)
パッチム挿入	5(2.1%)	9(3.8%)	3(1.3%)	17(2.4%)
同母音長音化	17(7.1%)	21(8.8%)	23(9.6%)	61(8.5%)
母音代替	7(2.9%)	4(1.7%)	8(3.3%)	19(2.6%)
長母音符号	3(1.3%)	20(8.3%)	11(4.6%)	34(4.7%)
表記ミス	4(1.7%)	4(1.7%)	4(1.7%)	12(1.7%)

ここでも転写表記が最も多かったが平仮名表記(73.8%)に比べると低く、全体の57.1%であった。次に多く見られた類型は短母音化表記で全体の13.9%であり、これは平仮名表記(10.1%)よりも高かった。続いて同母音長音化表記(8.5%)で平仮名表記(0.7%)よりも非常に高い割合であった。子音代替表記は全体の5.7%で平仮名表記(4.9%)と比較的近い割合であ

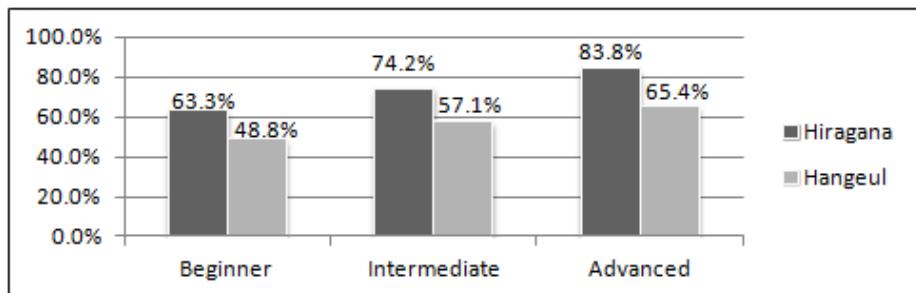
り、長母音符号表記は4.7%で平仮名表記の2件(0.3%)とは大きな差を見せた。長母音化表記は3.5%で平仮名表記(6.0%)よりも低く、母音代替表記は2.6%で平仮名表記(0.6%)よりも多かった。ハングル表記にはパッチム挿入表記が17件(2.4%)で確認された。最後に12件(4.7%)の表記ミスがみられた。

ハングル表記では日本語の正書法による長母音表記のような規定がないために平仮名表記ほどは制約を受けないために、長母音表記を比較的に様々な類型で表記している事実が分かった。

4.3.5 類型別の比較

ここでは、各類型別の平仮名表記とハングル表記を比べて問題点を考察する。この分析から得られた結果としては、ハングル表記には長母音表記のルールが存在しないために、学習者は聞こえた音が長母音であると認識はしつつも、どのように表記しなければならないのか明確でないために、認識率は平仮名表記と同等であったにも関わらず、表記の多様性という面では多種多様なハングル長母音表記をみせた。つまりハングルでの日本語長母音の表記ルールを制定することで学習者にとって効率的な表記を促すことができると期待される。

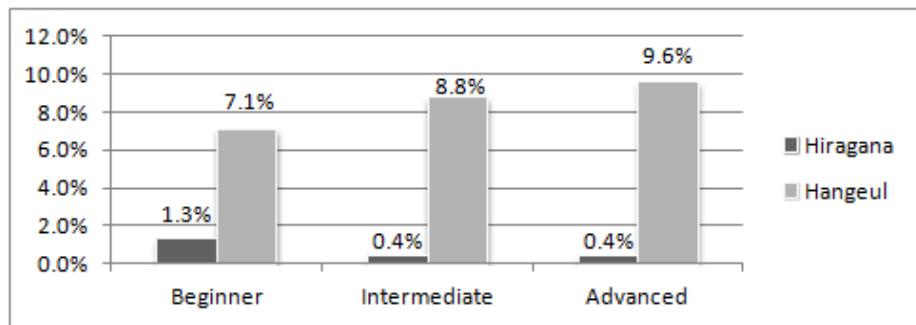
特に長母音の表記に関わる類型である「転写表記」、「同母音長音化表記」、「符号表記」、「短母音化」、「長母音化」と、それ以外をまとめて「その他の表記」として詳しく分析を行った。



<図 1> 転写表記

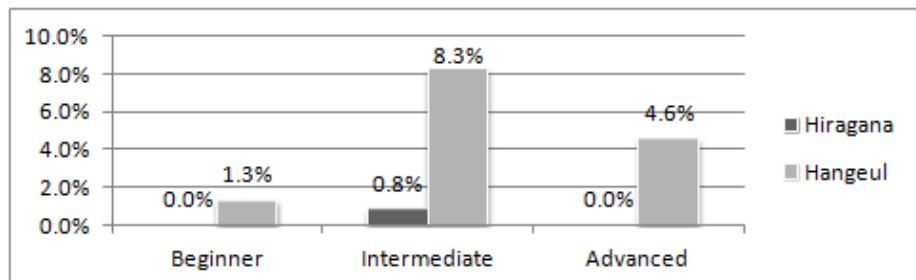
転写表記は両表記の全レベルで最も多く表記されたが、ハングルは平仮名よりも全レベルにおいて低かった。それぞれレベルが上がるにつれて回答数が上昇していることが確認

できる。上級のハングル(65.4%)では初級の平仮名(63.3%)を越える回答数をみせた。



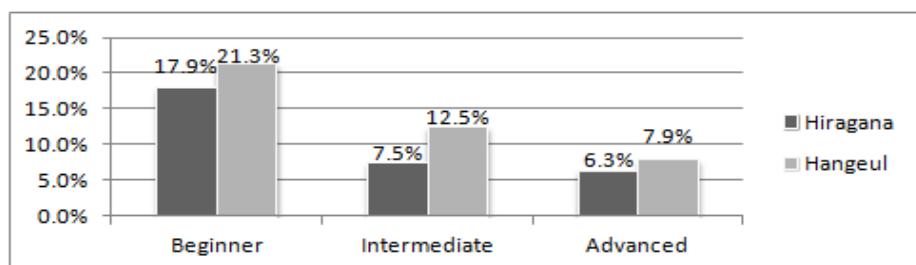
<図 2> 同母音長音化表記

同母音長音化表記は平仮名において初級で3件(1.3%)、中・上級では1件(0.4%)であったのに対してハングルでは初級で17件(7.1%)、中級で21件(8.8%)、上級では23件(9.6%)と級が上がるにつれて回答数が増えていることがわかる。黒柳・劉(2012)で示された新表記表に基づく転写表記が正しいハングル表記という立場から見ると、この同母音長音化表記は長母音であることを認識しつつも表記を間違えた誤用であると言えるが、級が上がるにつれて回答数が増えていることは、初級では提示語彙が長母音であるかどうかの判断が付かずに入母音と認識しているためにこの表記が少なく、中上級では長母音として認識ができるようになったと読み取れる。しかしハングルでは長母音表記に対する規則が定まっていないために同母音長音化表記の回答も認識と共に増加していると考えられる。平仮名表記のみならずハングル表記でも全体<図>で長母音認識表記が右肩上がりであることがこの主張をサポートしてくれる。



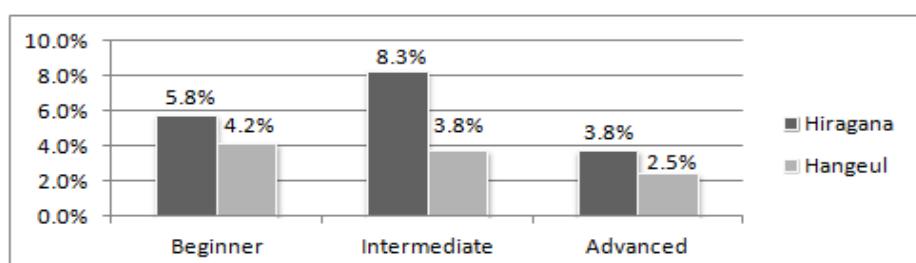
<図 3> 長母音符号表記

長母音符号は本来ならばカタカナの一部として使用される文字記号であるために、平仮名表記では中級の2件(0.8%)のみで確認された。しかしハングル表記では長母音を表記する規則が定まっていなかったために学習者が日本語の表記のカタカナにのみ使われる長母音符号をハングル表記に適用させている事実が確認された。初級では長母音自体の認識がまだ充分ではなく回答数が3件(1.3%)と少ないが、中級で一気に20件(8.3%)と急増したのちに、上級は11件(4.6%)と減少する山なりの変化をみせた。これは中級では長母音に対する認識を表記に表そうとして長母音符号を多く利用したが、上級では長母音符号がハングルに適さないために他の表記を利用したために数が減少しているものと考えられる。その証拠に長母音認識<表1>は全体として上昇しているからである。



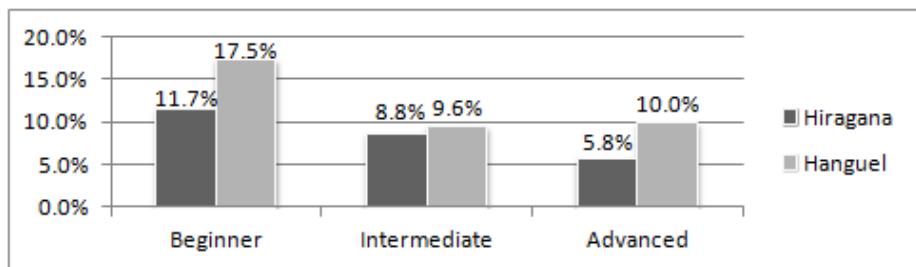
<図 4> 短母音化表記

短母音化表記は平仮名表記でもハングル表記でも級が上がるにつれて減少していることが確認された。さらに全ての級においてハングル表記が平仮名表記の回答数を上回っており、表記が短母音化されやすいことがわかった。これは長母音であると学習者が感じても、それを適切に表記する方法を学習者が見つけられずに表記上では短母音として回答した可能性も排除できないが、やはり長母音表記の未確定による弊害といえるだろう。



<図 5> 長母音化表記

長母音化表記は短母音化表記とは反対に全ての級においてハングル表記よりも平仮名表記において回答数が上回っており、平仮名表記の方が長母音化が起こりやすいことがわかった。ハングル表記においては級が上がるにつれて長母音化の回答数が減少しているが、平仮名表記では初級と上級を比べると上級で少なくなっているが、中級では初級よりもその数が多くなっている事実が判明した。



<図 6> その他の表記

その他の表記として「母音代替」・「子音代替」・「パッチム挿入」表記をまとめて示したものを見ると、全ての級において平仮名表記よりもハングル表記においてより多く確認された。特に平仮名表記では級が上がるに従って回答数が減っていることがわかるが、ハングル表記においては初級では17.5%と多いが中上級では10.0%以下であり、中級と上級ではその差はほとんどなく、上級でもむしろ0.4%であるが増加している事実がわかった。このことは中級以上では変化があまり起こらないことを示しているといえよう。

5. おわりに

韓国人日本語学習者を対象に日本語を平仮名とハングルで表記させる実験を行った結果、提示語彙の母音の長短のみに関して正しく表記した長母音認識表記が平仮名表記・ハングル表記において級が上がるにつれて高くなっていることがわかった。しかし提示語彙を正確に表記できたものは平仮名表記では60.3%(認識表記66.9%中)であったのに対してハングル表記では34.7%(認識表記68.3%中)にすぎなかった。これはハングルでは外来語表記法に長母音を表記する規定がないために学習者が同母音長音化表記や長母音符合表記などの

独自の表記を試行したことにより正確な(転写)表記の割合が下がったものと考えられる。

学習者の記した表記を類型にまとめると平仮名・ハングルの両表記において「転写」・「同母音長音化」・「符合」・「短母音化」・「長母音化」・「母音代替」・「子音代替」表記がみられ、平仮名表記には「促音添加」・「字形ミス」表記が、ハングル表記には「パッチム挿入」表記がそれぞれ独自に確認された。また平仮名表記では「転写」・「長母音化」表記がハングル表記よりも多くみられたが、それ以外のものはハングル表記において、より多様な表記が多くみられたことから、ハングル表記において日本語長母音の表記を制定・統一する必要性があるといえるであろう。

今回の結果を基にした、学習者を対象とする日本語長母音表記のより効率的な指導法などに関しては今後の課題としたい。

【参考文献】

- 장인선(1996)「현행 일본어 표기법과 나의 의견」『새국어생활』6-4, 국립국어연구원, pp.122-136
 고수만(1999)「현행 일본어 한글 표기법의 문제점과 그 개선 방향」『日語日文學研究』34-1, 한국일어일문학회, pp.33-52
 金淑子(1983)「日本語 學習者の 音聲的 誤謬에 關한 研究」『상명대학교논문집』12, pp.109-129
 김용각(2008)「일본어 한글 표기의 문제점 고찰 및 개선안 : 발음교육의 측면에서」『일어일문학』39, 대한일어일문학회, pp.109-121
 서현숙(2002)「일본어 가나의 한글 표기법에 관한 일고찰」부경대학교 교육대학원 석사학위논문
 편무진(1999)「일본어 한글 표기의 합리적 방안 : 관용적 표기를 근간으로」『日語日文學研究』34-1, 한국일어일문학회, pp.17-34
 黒柳子生・劉錫勳(2012)「日本語長母音の新しいハングル表記に関する一考察」『日本語教育』62, 한국일본어교육학회, pp.21-35
 志賀加奈子(2008)「韓国人日本語学習者の長音習得について」『日本語文學』36, 한국일본어문학회, pp.71-90

논문투고일 : 2013년 03월 10일
 심사개시일 : 2013년 03월 20일
 1차 수정일 : 2013년 04월 09일
 2차 수정일 : 2013년 04월 15일
 게재확정일 : 2013년 04월 20일

付録 1 < 実験の結果一覧 >

語彙	級	平仮名表記		語彙	級	ハングル表記	
		長母音認識表記	その他の表記			長母音認識表記	その他の表記
くろう	初	くろう(1)くるう(1)	くろう(5)くうろ(1)	いえい	初	-	이에(5)이아예(2)이예(1)
	中	くろう(6)	くろ(2)		中	이에이(1)이에(1)	이에(5)이아예(1)
	上	くろう(7)	くろ(1)		上	이에-(3)이아예(1)	이에(3)이아예(1)
くこう	初	くこう(3)ふこう(1) くごお(1)	くうこう(2)くこ(1)	くこう	初	쿠우쿄우(2)쿠우쿄우(1) 구우쿄우(1)구우쿄우(1)	구우쿄우(1)구쿄우(1)
	中	くこう(4)くっこー(1) くこうう(1)	くうこう(2)		中	쿠우쿄우(2)쿠우쿄우(2) 구우쿄우(1)쿠우쿄우(1)	구우쿄우(1)쿠우쿄우(1)
	上	くこう(8)	-		上	쿠우쿄우(3)쿠우쿄우(2) 구우쿄우(1)구우쿄우(1)	쿠쿄(1)
こうきゅう	初	こうきゅう(3)	こきゅう(1)ごきゅう(1) くう(1)ごくゅう(1) こうくゅう(1)	こう	初	쿠쿄(3)쿠쿄(2) 구쿄(2)쿠쿄(1)	-
	中	こうきゅう(6)	こうきゅう(1)こきゅう(1)		中	쿠쿄(4)쿠쿄(2) 구쿄(1)쿠쿄(1)	-
	上	こうきゅう(7)	こきゅう(1)		上	쿠쿄(3)쿠쿄(2) 구쿄(2)쿠쿄(1)	-
じょうせい	初	じょうせい(2)ぞうせえ(1)	じょうせ(3)じょせ(1) じょせい(1)	すり	初	쓰리(3)수리(2)쓰리(1) 슈리(1)수리(1)	-
	中	じょうせい(5)ぞうせい(1)	じょうせ(1)じょせ(1)		中	수리(3)수리(2)쓰리(1)	수우리(2)
	上	じょうせい(8)	-		上	스리(4)수리(2)시리(2)	-
すうり	初	すうり(4)	すり(4)	どうきよ	初	도우료(3)도오료(1)	도쿄(2)도오쿄(1)도요(1)
	中	すうり(4)しゅうり(2)	すり(2)		中	도우료(2)도우료(1)	도우쿄(2)도쿄(1)
	上	すうり(7)	すいり(1)		上	도우료(3)도오료(3) 도우쿄(1)	도호쿄(1)
せと	初	せと(5)せつ(1)	せとう(1)せとお(1)	とおる	初	도오루(5)도우루(1) 도오루(1)도우루(1)	-
	中	せと(4)	せとう(3)せつとう(1)		中	도오루(6)도으루(1)도우루(1)	-
	上	せと(6)	せとう(2)		上	도오루(6)도오루(1)	도우루(1)
とうし	初	とうし(5)どうし(1)	どし(2)	へいや	初	해이야(5)	해아(3)
	中	とうし(5)どうし(2) どおし(1)	-		中	해이야(7)해-야(1)	-
	上	とうし(7)とおし(1)	-		上	해이야(8)	-
どきょう	初	-	どきょ(2)どきょう(1) どうきょ(1)どきょ(1) とつきょ(1)とつきょ(1) こうきょ(1)	こうきゅ	初	코오큐(1)	코우쿄우(2)쿄큐(1)고腥(1) 고우쿄우(1)쿄유류(1)
	中	どきょう(5)どきょう(1)	どうきょう(1) とうきょう(1)		中	코우쿄(2)코-큐(1)고오큐(1)	코우쿄(1)고큐(1)
	上	どきょう(2)ときょう(2)	とつきょ(2)ときょ(1) ときょ(1)		上	코우쿄(3)코우쿄(2)고우큐(1)	코우쿄우(1)고우쿄우(1)
ゆうき	初	ゆうき(7)	ゆう(1)	めいれい	初	메예레예(1)	메래(4)메예(2)메이레(1)
	中	ゆうき(7)ゆうき(1)	-		中	메예레예(2)메이레이(1) 미예레이(1)메-레이(1) 미-레이(1)	메래(2)
	上	ゆうき(8)	-		上	미예레이(3)미이레이(1) 미-fp-(1)미이레이(1) 미-레이(1)	미이레이(1)
りょうこ	初	りょうこ(4)ようこ(1)	りょこう(2) りょうこう(1)	ようじい	初	요오지이(1)	요지(3)요오지(2) 요우지(1)요오지(1)
	中	ようこ(5)りょうこ(1)	ようこう(1) りょうこう(1)		中	-	요우지(3)요오지(2) 요지(2)요-지(1)
	上	ようこ(4)りょうこ(3)	りょうこう(1)		上	요우지(1)	요우지(5)요오지(2)
つうらい	初	つうらい(3)	ずううち(2)ついいち(1) ぐらい(1)ずううじ(1)	えがく	初	예가(6)	예이가(2)
	中	つうらい(3)つうじい(1)	づうち(1)づじ(1) ずううち(1)づち(1)		中	예가(6)	에-가(1)에가오(1)
	上	つうらい(5)	つうち(1)		上	예가(7)	예이가(1)
とけ	初	とけ(4)とけ(2)	とうけ(2)	くろう	初	쿠우료(2)	쿠우료(3)쿠료(2)구우료(1)
	中	とけ(2)とけ(2)とけ(1)	とけ(2)とけ-(1)		中	쿠우료(2)쿠-로-(2)	쿠우로(3)쿠우로(1)
	上	とけ(3)とけ(3)とけ(1)	とけい(1)		上	쿠우료(2)ку우료(2)	쿠우로(2)쿠로(1)크으로(1)
ぱあいい	初	-	ぱあい(8)	ぱし	初	보시(7)보시(1)	-
	中	ぱあいい(4)	ぱあい(4)		中	보시(8)	-
	上	ぱあいい(2)	ぱあい(6)		上	보시(8)	-
ほうほ	初	ほうは(5)	ほうほう(2)ほほ(1)	せとう	初	세토우(2)세토오(2)세또오(1)	세또(2)세토(1)
	中	ほうは(2)	ほうほう(6)		中	세토우(3)세토우(1) 셋도오(1)세토(1)	세에토우(1)세토(1)
	上	ほうは(7)	ほうほう(1)		上	세토우(5)세토우(1) 세또오(1)세또오(1)	-
めれ	初	めれ(6)めね(1)	めいれ(1)	とおけ	初	도우캐(3)도우캐(1) 도오캐(1)도우캐(1)	도우캐에(1)도께에(1)
	中	めれ(6)	めいれ(2)		中	도우캐(2)도우캐(2) 도우캐(1)도오캐(1)	도우캐이(1)도-캐-(1)
	上	めれ(5)	めいれ(2)めいれい(1)		上	도우캐(3)도우캐(1)도우캐(1) 도오캐(1)도우캐(1)	도우캐에(1)

〈要旨〉

日本語学習者の平仮名表記およびハングル表記に関する一考察

－長母音表記を中心に－

本研究は、日本語の長母音を学習者が実際にどのような表記で認識しているのかを確認し、表記の多様性から日本語のハングル表記の統一の必要性を主張しようとするものである。そのために長母音を平仮名とハングルで書かせる実験を実施し、学習者の長母音認識率をレベル別に分析、長母音表記の類型を観察した。そして長母音表記の存在しないハングル表記において、どの程度の長母音認識を示すかを確認し、ハングル表記の多様性から日本語長母音表記の必要性を強調しようとするものである。

実験の結果、提示語彙の母音の長短のみに関して正しく表記した長母音認識表記が平仮名・ハングルの両表記において級が上がるにつれて高くなっていることがわかった。しかし提示語彙をそのまま正確に表記できたものは平仮名表記では60.3%(認識表記66.9%中)であったのに対してハングル表記では34.7%(認識表記68.3%中)にすぎなかった。これはハングルでは外来語表記法に長母音を表記する規定がないために学習者が独自の表記を試行したことにより正確な(転写)表記の割合が下がったためと考えられる。まとめると、平仮名・ハングルの両表記において「転写」・「同母音長音化」・「符合」・「短母音化」・「長母音化」・「母音代替」・「子音代替」表記がみられ、平仮名表記には「促音添加」・「字形ミス」表記が、ハングル表記には「パッチム挿入」表記がそれぞれ確認された。また平仮名表記では「転写」・「長母音化」表記がハングル表記よりも多くみられたが、それ以外のものはハングル表記においてより多様な表記が多くみられたことから、ハングル表記において日本語長母音の表記を制定・統一する必要性があるといえるであろう。

A study of the Hiragana transcriptions and the Hangeul transcriptions by Korean learners of Japanese

－Focused on transcriptions of Japanese long vowels－

This study aims to check the transcript of Japanese long vowel in Hiragana and Hangeul writing by Korean learners of Japanese, and claims that the necessity to uniform the Hangeul loanword orthography for Japanese long vowels. Therefore, the experiment was carried out to transcribe the Japanese long vowel in Hiragana and Hangeul writing, and analyze transcript's types.

The result shows that Korean learners write the “transcription”, “elongation with same vowel”, “usage of long vowel mark”, “shortening of vowel”, “elongation of vowel”, “substitution of vowel”, “substitution of consonant” for Hiragana and Hangeul writing. Especially in Hiragana writing, the “insertion of double consonant(sokuon)” and “error transcription” was used, and in Hangeul writing, the “insertion of final consonant(patchim)” was used. Hangeul transcription shows more variety of transcription types, this means that the uniformity of Hangeul loanword orthography for Japanese long vowels is needed.